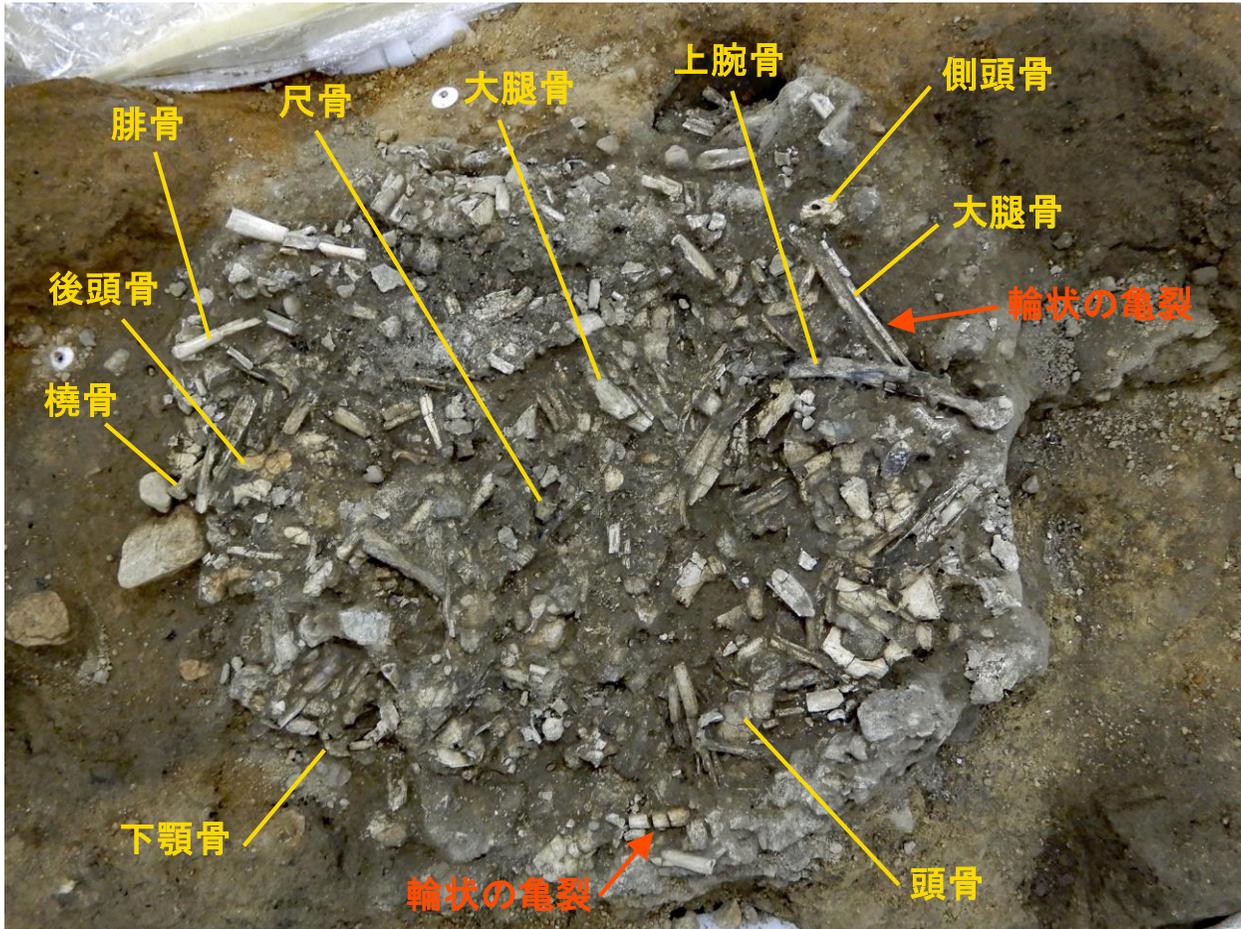


☆焼人骨集積土坑人骨出土状況 出土した骨は、黒色・灰白色・白色と様々な色調を呈しており、いずれも被熱されたものと思われます。多くが白色です。焼成による骨の色調変化は焼成温度と焼成時間に関係しており、黒色は500℃前後、灰白色は600℃以上、白色の色調はさらに高く800℃以上の高い温度で長時間焼成されたとされています(Shipman et al., 1984; Nicholson, 1993)。一部の四肢長骨片に輪状に走る亀裂がみられます。このような四肢長骨の亀裂は、骨が軟部組織に覆われた状態で焼かれた際に生じることが指摘されており(池田1981)、これらの焼骨群はまだ軟部組織が付着しているときに、高温で長時間焼かれたものと思われます。

肉眼観察でヒト以外の動物を積極的に想起させるものは存在せず、同定できた骨は全てヒトです。頭骨から脊柱・四肢骨まで全身の骨が確認されています。現在までのところ、下顎骨のオトガイ部片が3個出土していることから、全部の骨を埋葬したかどうかは不明ですが、最小個体数は3体です。下顎骨のひとつに縄文時代に盛行した習俗である抜歯をしたと思われる痕跡が確認できます。



焼人骨集積土坑人骨出土状況



下顎骨: 抜歯痕なし



下顎骨: 抜歯痕あり